国際物流を支援地域交通の大動脈 ングラデ

自動車利用者という事実と相まっ 国内の貨物・旅客の移動の7割が 施行に向けて協議が進んでいる。 関する基本合意が成立し、 ぐ交通の大動脈が数多く走っていとも呼ばれる、周囲の国々をつな しかし、国内や国境周辺の道路・ 4カ国で車両の自由通行などに 道路交通網の整備は必要不可 今年6月には、インド、 る、周囲の国々をつなりシュには、国際回廊 ネパ 12 月 の

状態だ。これを改善するために、 通関などの国境手続きの効率と、整備の遅れや老朽化に加え 今後は、 周辺国との連結性 替えなどを進めて

日本の技術が解決策に需要高まるエネルギー 物流網」を形成すべく、さまざま を念頭に入れた「クロスボーダー 際幹線道路上に架かる橋を中心 日本はすでにバングラデシュの国 も悪いために十分に機能していな

ていいほど停電に悩まされること 国に移り住んだ人は、必ずと言っ 日本などの先進国から開発途上

> 発展に向け差し迫った課題なの 電力不足の解消は、この国の経済 びると見込まれている。つまり、 産業の電化や工業化の進展によ 7割にとどまる上、 最大発電実績は、 頻発している。最大の原因は、と少ないものの、それでも停雷 と少ないものの、 力の供給不足だ。 になる。ここバングラデシュは 人当たりの年間電力消費量は2 (日本は同7752キロワッ 12年の時点で279キロワッ 年10%ペー 国内電力需要に対する スで電力需要が伸 政府の推定で約 2014年3月 今後10年間は 停電は

ら輸入した石炭を使う石炭火力発 時間がかかるため、 に埋蔵されており、これを活用す 天然ガスの他に良質の石炭が豊富 利用した火力発電に頼ってきた。 主に国内で生産される天然ガスを れば電力の需要をまかなうと同時 バングラデシュではこれ として注目が集まって ガスの需要を満たすこともで 灰だ。バングラデシュ国内には国内に埋蔵されている良質の 減少するとみられている。 ?かかるため、まずは海外かしかし、採掘開始までには 天然ガスに代わるエネルギ 国内のガス産出量は、 いるの **朮まで、**

この「マタバリ超々臨界圧石炭

石炭を積み込む港も兼ね備えた、発電所の完成イメージ

塩田が主な産業のマタバリの人々も、新たな発電所の建築 に期待を寄せている

これを受け、

日本は

場面でも、現地側責任者の積極的 関係機関・責任者との調整や手続 にわたるプロジェクトは、多くの今回のような大規模かつ多部門 な協力と調整が功を奏して、 きが必要だが、煩雑になりそうな 民からも注目が集まっている。

接投資の呼び込みが不可欠だ。

法律や行政制度(投資庁)など

など、環境が着々と整う一方で、 の枠組みや、低賃金労働者の確保

ンフラや制度規制の未整備な

さまざまな技術を編み出してき率的に利用するために、これまで

た。その一つが、この発電所で使

268メガワット)の1割をゆう 年3月時点での推計電力需要(9

も建設する予定で、

政府や一般市

に向けて発電所と隣接した深海港

に超える出力規模だ。

資源の

少ない日本は、

燃料を効

所を建設する

200メガワット。これは、を建設する計画だ。 定格出力

定格出力は

出を抑制することにもつながる。

るだけでなく、温室効果ガスの排ことは、同国内の電力需要に応え

発電に使う石炭の量を低く抑える

さらにこの事業では、

石炭の輸入

南東部のチッタゴン管区マタバ力発電事業」は、バングラデシ

高効率の石炭火力発電

物流インフラや電力供給など、

さらなる経済発展に向けた〝器

賃金が安い縫製業に集中してお の)からバングラデシュに派遣さ の資金調達を支援するとともに と指摘する。 資が広がりにくいのも事実です。 融機関の金利が高いため、国内投 外からバングラデシュに対する投 れている前川直行専門家は、「海 多様化が課題です。 この国が直面する課題も数多 日本貿易振興機構(JETR 「中小企業振興金融セクタ 比較的技術レベルが高くて

より幅広い投資の誘致に向け協力

投資率の改善、特に外国からの直て低い水準にとどまっている民間 民総所得3976米ドル以上) 年までに中進国(一人当たりの国 の中身となる産業の振興を後押しの準備が進むバングラデシュ。そ の実現のためには、周辺国と比べ するために、日本は12年から首相 することを目指しているが、 同国政府は、 from パングラデシュ **Bangladesh**

東西アジアの要、 地域発展の拠点へ



既存のメグナ橋。交通量の増加で、交通の大動脈としては心細くなってきた。 そこで、新たな橋を架けることに

